

「職員室のダイエット」

から働き方改革を

第1回

減らす、見直す、整える

ニューノーマルな学校を目指して

二〇二一年度が始まりしました。児童生徒一人一人にタブレットやノートパソコンが配られ、四月から本格的にGIGAスクール構想に取り組む学校も多いと思います。紙とペンが主流だった学校現場に本格的にインターネット環境が整備され、いよいよ教育のデジタル化へと歩みはじめました。Googleや日本のベンチャー企業が開発したアプリを活用して教育

が行われるなんてワクワクしますね。

それでも、完全に手放して喜べない自分もいます。こうした急速な変化は、肯定的に語られる一方で、不安材料も抱えているからです。

なかでも早急に解決が必要なのが、「日本の教員にはICT機器を活用するスキルを身につける時間がない」という課題だと思っています。過労死ラインを超えて働く教員の数は依然として多いですし、多忙が原因で精神を病んでしまう方もいます。早急な解決のために、働く環境を整

学校整理収納アドバイザー

丸山 瞬

まるやま しゅん 元小学校教員の経験を活かして、働きやすい学校づくりの提案をしている。整理収納アドバイザー1級。趣味は自転車・コーヒー・深夜ラジオ。



える具体的な行動が必要なのではないでしょうか。

この連載では、片付けによって時間を生み出すためのロードマップを示すだけでなく、二〇二一年度の学校のあるべき姿についても論じたいと思います。お付き合い合い、よろしくお願いいたします。

学校の片付けて、面白い

— 昨年の二月、私は自分の三年間にわたる小学校の片付けの実践を綴った本を出版させていただきました（『職員室のモノ、1t捨てたら残業へりました！』学陽書房）。身近なモノの片付けが学校の働き方改革へとつながることを書いた本です。そんな学校のモノを約一万kg以上断捨離してきた私（同僚から「片付けクレイジーお兄さん」といじられておりました）が、片付けの魅力にハマったきっかけがあります。講師時代、夏休みの間にしていた学校準備室の片付けでの出来事です。

真夏の締め切った校舎の中、半袖に短パン、カフェ店員時代に使用していたエ

ブロンを着けて代車を押している男が私でした。その日もせっせと机や椅子の号数を数え、在庫数をチェックしていました。自分の背丈以上もある机の山を崩して、体育館裏倉庫へと収納していきます。二時間ほど経った頃でしょうか。L字になっっている準備室の部屋の先がようやく見えってきました。今まで入ることができなかった部屋の奥の奥へ足を踏み入れると、なんとそこから移動式の大型ダストボックスが二つ、袋をかぶったまま出てきたのです。気分は藤岡弘、探検隊。一人で舞い上がり、蓋を開けたり閉めたり。部屋の中をコロコロ、ゴロゴロ。調べてみると一つ六万円ほどもある代物でした。校長先生に許可を得て、学校の調理員さんに使っていたくことにしました。後日手渡すと、「臭いのする生ゴミに困っていた」とのこと、たいへん喜ばれたのです。職場を片付けるのって、働き方をよくすることにもつながるんですね。

モノを改めて有効活用するということは、新たな価値を生み出すのです。今回の件は、調理員さんたちの働き方の質を上げることができ、金額にして約一二万円も得をしました（ついでに私の株も上がった）。校内にはこうした「お宝」がザクザク眠っているのです。

まずは心の整理から

それでは今からお宝探しの旅に出発したいと思います。が、その前に、心構えを確認しておきましょう。

まずはじめに、あなたが職場の片付けをする目的は何でしょう。「机を整理して働きやすくしたい」「担当教科の教室を整理して、次年度の先生に引き継ぎたい」「GIGAスクール構想に対応できるように、職員室を使いやすくしたい」など、何でも構いません。自分の中で決めておきましょう。また、片付けは手段であり、ビジョンを実現するためにいうところをいつも意識してください。

次に、整理整頓という言葉について考

えてみます。整理とは、要と不要を分けることです。目の前のモノを一つ一つ手に取り、自分にとって「いるのか」「いないのか」を判断します。片付けが難しいのは、この判断が難しいからなのです。

スペースを空けたいけれど絶対にモノは減らしたくない、という願いは同時には叶いません。スッキリ働きたいからまだ使えるペンを手放す、と考えられるとどんどん身軽になっていくはずですよ。

また、整頓とは整えることです。整理によって減ったモノを使いやすい場所を整頓して置くことを意味します。一度の片付けでうまくいかなかったら、「減らす↓整える」「減らす↓整える」を繰り返して、徐々に理想の状態に近づけていけば大丈夫。焦らず気ままに行きましょう。

最後に、難しく考えずに、まず一つ手放してみてください。整理整頓には手順や法則があり、少しずつ段階を踏めば誰にでも再現可能です。モノとの付き合い方について、周りの人と考えてみるきっかけにしてほしいと思います。

しかしながら、学校には綱渡りをしな

からジャグリングをするような絶妙な人間関係もあるものです。どうしても同僚に遠慮をしてしまうこともあるでしょう。そんなときは、この連載に帰ってきてください。きつと、助けになつてみせます。

個人ロッカーの片付けに学ぶ

更衣室のロッカーには持ち主の衛生意識が現れます。どんなにスマートに仕事をしようと思っても、普段人に見られることがないロッカーという奴は正直なのです。では、パンパンにモノが詰まったロッカーを「取り出しやすく使いやすいロッカーにする」ことを目標に片付けてみましょう。

①ロッカーの中に入っているモノを外にすべて出してください。床に敷いた敷物の上にどんどん並べていきましょう。全量を一目で確認すると、「こんなにたくさんモノが入っていたのか」と思われると思います。その驚きが、面倒くさくしょうがない片付けを前に進める原動力になります。

②明らかなゴミを取り除きます。式典のときに使った座席表やクリーニングのタグがありました。空になったデオドラントスプレーも捨ててしまいましょう。ロッカーが空いたときに絶好のタイミング。固く絞った雑巾で中を拭きます。見えない場所の埃もサツと拭くだけでスッキリしたと感ずるので、不思議ですよ。

③残ったモノを分類します。プラスチックハンガーやワイヤーハンガーをひとまとめに。靴や本も、それぞれ種類ごとに固めておきます。まとめると自分の持ち物の中で数が多いジャンルが一目で把握できます。私の場合は、ネクタイが五本もストックしてありました。

④分類した山を整理します。この行程はモノと向き合う最も大切な時間です。私は使いやすいロッカーにしたいので、上着、スーツ、体育館シューズ、運動できる服など、少量に絞ることにしました。ハンガーも必要数以外は手放します。前年度の教室で使っていた教材も一度捨ててしまおうと思います。ク

ラスの子からもらった手紙が出てきたので、それだけ一枚残しておきます。今必要としているものは、自分が見たときに元気が出るものは無理に捨てなくていいですからね。

⑤最後に、必要な数だけに絞った衣類などをロッカーに戻して完成です。

考えの先にあるもの

手を洗って、コーヒを片手にロッカーを眺めてみましょう。ほんやり見つめていると、さまざまな考えが浮かんできます。使いやすいとはいったい全体どういうことなのか。自宅のクローゼットではなく、仕事場としてのロッカーはどうあるべきか。手放したくない気持ちの根源はどこにあるのか…。

片付けに正解はありません。所有するモノは、考え方一つで増えたりも減ったりもします。デジタル時代の学校教育に、モノはどれだけ必要なのでしょうか。ロッカーの片付けを通じて学校のあるべき姿に思いを馳せてみてほしいと思います。